

『日に新たに』
令和8年度 校長室便り
(5月26日) (第4号)



「有言実行」

5月24日(日)嬉しいメールが届きました。「優志がボクシング・ライトウェルター級で優勝し、インターハイ出場。弟・大志がバドミントン級で準優勝し九州大会出場が決まりました。嬉しくて徳留校長に連絡しました。」引率されていた沖永良部高校の田原先生からの速報でした。「やったな、優志、大志」思わず叫んでしまいました。私が前任校で毎日7時半から校内を巡回していると、「パンパン」と音が響いてきます。それは、朝練をしている宮山兄弟のスパリングの音でした。昨年の新人大会では、兄は負けて弟が優勝し九州大会に出場しました。兄は、弟のセコンドとして大会に参加し悔しい思いをしていました。「校長先生、僕は絶対にインターハイに行きますからね」と私によく話していました。兄の成長を心から嬉しく思いました。

「垂水小学校」の運動会

5月17日(日)は第17回垂水中央中学校の体育大会、24日(日)は垂水小学校の運動会を観覧しました。どちらも天気が良く素晴らしい運動会(体育大会)になりました。これまでは、多くの学校が9月~10月に開催していましたが、熱中症が心配されることから、4~6月に実施するようになりました。垂水小学校も午前だけの開催でしたが、キビキビと児童が動き、盛りだくさんで見応えのある運動会でした。「朝礼台に注目」と言われて、1年生の数人が「掲揚台」に注目しているのを見て、微笑ましく感じました。つい最近まで幼稚園生だったわけですからね。



「高校総体県予選大会 開幕」

私は、本年度から県高体連テニス競技部の専門部長を仰せつかりました。私の二男が高校時代にテニス部に所属していて、多くの先生方にお世話になっていましたし、応援にも来ていましたので、依頼を受けて快諾しました。企画・運営は、役員の方が行うわけですが、高校の校長は、各競技の専門部長になって、大会の開会式等で挨拶や受賞のお手伝いをします。



5月23日(土)知覧テニスの森では男子の部が始まり、開会式から参加しました。その後、団体戦が始まり一日中観戦しました。団体戦は、シングルス2戦とダブルス1戦が同時に試合を開始し、先に2勝した方が勝利となります。ベスト4をかけて、鶴丸高校と甲南高校が対戦しましたが、途中で1対1となり、シングルス・ワンの結果で勝敗が決まるという展開でした。それもタイブレークまで持ち込み、見ている観客からもひとプレイごとに歓声が上がリ、固唾をのんで見守りました。結果は、甲南高校の勝利。本当に素晴らしい試合でした。

どの試合も最後にチームを代表して、主将が応援してくれた保護者に感謝の気持ちを伝えるわけですが、その言葉に感動を覚えます。負けても人として成長させてくれる部活動は、本当に意義深いなと爽やかな気持ちで会場をあとにしました。

「家庭クラブ連盟 第1回役員会」



5月20日(水)14時より「令和8年度鹿児島県高等学校家庭クラブ連盟第1回役員会」がオンラインで実施され、生徒役員である3年生の野元さんと濱本さん、2年生の中原さん、顧問の渡邊先生と一

緒に参加しました。

本年度事務局の国分高校の生徒の司会で、令和7年度の事業計画・決算・監査の報告、令和8年度の事業計画案と予算案の検討が滞りなく終了し、その他の行事や機関誌等の説明も、担当の生徒が手際よく行い、予定より早く終了しました。

私は初めて参加しましたが、家庭クラブの活動内容等について初めて知ることばかりで、とても新鮮でした。また、画面を通して久しぶりに会う先生方の顔を拝見できて大変懐かしく、有意義な会になりました。

その後、生徒はクラブ員交流会に参加し、学校紹介や鹿児島県観光地ビンゴで盛り上がっていました。県全体の役員が参加する会だったので、どの生徒も立派に役割を果たしていましたが、本校の役員3人も臨機応変に、主体的に対応できて、さすがだなと感銘を受けました。

「音楽(バイオリン)の授業」



5月21日(木)バイオリンの音色に誘われて音楽室にお邪魔したところ、22HRの生徒がバイオリンの授業を受けていました。ちょうど1年時で習った「きらきら星」の練習をしていました。全員の復習が完了したところで合奏。松尾先生のピアノに合わせて美しいメロディーを奏でていました。

その後、バイオリンの各部の名称やその特徴の説明があり、釘や接着剤を使わずに、弦の引っ張る強さだけで設置してある箇所があることを知り、驚きました。

3時間しかない授業の中で、今回は複数の曲にチャレンジするようです。授業を通してバイオリンが弾けるようになるなんて、素敵な学校ですね。

「陰日なたに咲く」の言葉大切に

垂水高校1年 窪田 琉衣

私が「陰日なたに咲く」という言葉を知ったのは中学1年生の時だ。担任をしていた先生が週報のタイトルにしていた。

最初は意味が分からなかったが、与えられた環境の中で努力することがどれだけ大切か、人が見えないところでも正しい判断で行動することができるかが大事と聞いた。毎日の生活で、その言葉を意識しようと思った。

人間誰でも、生きていて楽しいことばかりではない。私は高校に入学して、楽しみなこともあるが、不安な気持ちもたくさんある。でもその環境の中で努力することで楽しい生活ができると思う。

これからも「陰日なたに咲く」という言葉を大切にして、学校生活を楽しまたい。(垂水市)

5月25日(月)付 南日本新聞より

